

住みよいたけし

2023年12月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



開会式後の記念写真



ふるさと武石・ ともしび博物館の巻 ～みんなで新発見・新体験をしよう～

11月24日(金)、住みよい武石をつくる会子育て教育文化部会では「ふるさと武石・ともしび博物館の巻」を開催しました(協力:ふれんず武石児童館・学童保育所ピーターパン)。

小学校の振替休日にあわせ、児童館利用の児童36名とつくる会部会員等の大人24名が参加し、ミニアロマキャンドル作りとネイチャーゲームを楽しみました。普段は静寂感が漂うともしび博物館もこの日は児童の元気な歓声が響き渡りました。

ミニアロマキャンドル作りでは、博物館職員でもある橋詰秀行部会長が講師を務め、児童の手によって個性豊かに彩られたミニアロマキャンドルが作り上げられました。



アロマキャンドル作り

また、ネイチャーゲームでは江口達夫さんと清住邦広さんの指導のもと「自然への気づき・発見する喜び」をテーマにした発見ゲームをしました。

橋詰部会長は『武石の宝である子どもたちが和気藹々と楽しい体験活動ができ、所期の目的が達成できて嬉しい限りです。生きる力が育めるような様々な仕掛けを今後も考えていこうと考えています。』としています。



ネイチャーゲーム

地域に賑わいの秋

文化祭、JA生活祭、おさんぽギャラリー開催



10月29日(日)、武石秋の恒例行事が開催されました。

文化祭には武石小学校児童の書道や絵画、クラフト、写真、盆栽、生

花など皆さんの力作が展示され大勢の皆さんが観覧していました。

JA武石店の広場では生活祭が開催され、

野菜の直売や飲食店のブースが並びました。

また武石風土つなぎ隊のおさんぽギャラリーも同時開催され、旧たまりやでは障子張りや干し柿の体験、コーヒーの振る舞い、さらにすまいるきっちんによる第2回目となる子ども食堂も行われるなど多彩な催しとなり、あちらこちらで久しぶりに合えた人たちの会話の輪が広がっていました。



紙芝居(つなぐ家で)

武石ふれあいマルシェ

11月18日(土)、JA武石店駐車場を会場に武石ふれあいマルシェが開かれました。この催しは、かじかやらーめんの児玉篤人さんが飲食店やクラフトづくりの仲間によびかけて開催されたものです。ラーメンや唐揚げ、クレープ、コーヒーなど各種食べ物の店舗、手作り工芸品店などが並び、ステージではキッズダンスや太鼓の演奏などがあり会場を盛り上げました。これに合わせ、つなぐ家もオープンし、丸子の農産物直売所あさつゆの野菜が販売されました。

あいにく初雪がちらつく寒い一日でしたが、来場者はそれぞれ買い物や飲食を楽しみました。



「たまりや」再生に向けて

「たまりやを何とか再生したい」として9月30日(土)、ワークショップ形式で研究会がもたれ



ました。旧たまりやは、七ヶの下武石信号機の四つ角に建つ旧家で、昭和40年代まで醤油や味噌を製造・販売していましたが現在は空き家になっています。JA武石支所にも近く養蚕造りの重厚な家屋であり、管理されている柳沢忠さんが地域のために何とか有効利用できないかと武石風土つなぎ隊に相談、長野大学松下ゼミの協力を得ながら利用方法の検討を進めています。

この日は、つくる会産業経済部会員も参加して、現場を視察後、4つのグループに分かれたワークショップ形式で利用についてアイデアを出し合いました。資金や人など課題が大きく簡単には進みませんが、今後も有効利用について検討を重ねていくことにしています。

地域を学ぶ秋

武石診療所長奥泉医師との懇談会 つくる会健康福祉体育部会

武石診療所は住民に一番身近な医療機関として地域住民の大きな期待があります。つくる会健康福祉体育部会では、診療体制の理解を深めるため昨年に続き11月9日(木)に奥泉所長との懇談会を開催しました。

奥泉所長は、

「曜日により医師が変わったり、宅直の廃止をして、かかりつけ医として不安に思っている住民もいるかと思う。しかし前任の廣瀬医師からの電子カルテの引継ぎなどにより、患者一人ひとりの病歴、投薬状況、さらには家庭環境なども医師全員が共有できている。総合診療科の医師もいるので、どの曜日でも安心して受診してほしい。また

緊急や専門治療のため依田達病院を受診するときも電子カルテを共有して武石診療所での病歴や投薬もわかるので安心である。

訪問診療は、現在行っている件数は余裕がありもっと充実できる。どの病院からの紹介患者でも引き受けできるので必要な時は相談してほしい」

などと話されました。

また加齢により心身が古い衰えた状態(フレイル)についても説明があり、この状態は健常状態に戻る可能性があるとして、その予防のための日常の簡単な運動についても解説と実演がありました。



フレイル予防運動の実演をする
奥泉診療所長

人と人とのつながりの変化に即応を

11月2日(木)、市が主催するまちづくり講演会が市文化会館で開催され、武石地域からも地域協議会委員、自治会役員、つくる会委員などが参加しました。今年は千葉大学大学院関谷昇教授が、自身が関わる千葉県内の地域自治組織や地域づくり活動を踏まえながら講演しました。

講演では、

「行政が縮小し、住民が自分でできることは自分たちで実践する必要があるが、その主体と期待される自治会は、役員の負担が大きいためなり手が不足し、運営は前例踏襲でパターン化・マンネリ化して加入者が減少するなど運営が困難になってきている。住民には自治会はどのような活動を

しているのかその必要性が分からない一方で、問題を抱える人が埋もれていて要援護者の情報共有がされていない、といった問題を抱えている。

これからは、課題の発見・掘り下げ等住民のニーズをきちんと把握し、問題意識をもっている人がプロジェクトを作って対応していくことが大切ではないか。また、市民のライフスタイルが変化し、SNSやemail、LINEなどが普及し、人と人のつながり方が変化してきており、時代に即応するツールの利用も大事である」

など、これからの地域づくり活動への提言がありました。

糖尿病の予防には食生活に注意を

11月11日(土)、武石地区社会福祉協議会(橋詰秀行会長)主催の住民会議が開催されました。今回は信州大学医学部日高宏哉特任准教授による「生活習慣病の改善と予防」と題した糖尿病についての講演が行われました。

講演では、「糖尿病は、予備軍を入れると国民の6分の1もの患者がいると言われ、特に40代から急激に増える傾向にある。罹患すると免疫力が低下するため様々な病気りかんの元になりやすく、糖尿病患者はコロナウイルスに感染すると死亡率が非常に高くなる。

生活習慣から発症するⅡ型糖尿病を予防するう

えでは、規則正しい食事、よく噛むこと、バランスの良い食事、特に繊維質をとることなどが重要。」などの指摘がありました。



小学生の ブロッコリー収穫体験

10月19日(木)、武石小学校2年生は、上本入の竹内利通さんの畑でブロッコリーの収穫を体験しました。2年生13人はこの日、株を根元から



引き抜いて、お手伝いのJAの職員に花蕾部分^{かさい}を切ってもらい、一人2つは家へのお土産です。収穫の後は、大鍋で茹でたブロッコリーを野天^{のてん}でいただきました。いつも給食の野菜を残してしまう子も、この日は「おいしい」とお替りをしていました。

収穫体験は、竹内さんが地域の子供たちに農業の大切さを知って、農産物を好きになってもらうためにとブロッコリー畑の一角を提供し、JAの協力を得ながら毎年実施しているものです。

小学校では、ブロッコリー収穫だけでなく2・3年生の大豆栽培と豆腐・味噌作り、3年生のシイタケ菌コマ打ち、4・5年生が米の栽培、6年生のマツタケ収穫など農業体験の機会がたくさんあります。小宮山校長先生は、「武石は食育教育という面が大変充実している。さらに余里花桃の遠足、ツリークライミング体験など自然にふれあう教育環境に大変恵まれていて素晴らしい」と話していました。

武石十景 小山の秋月



天から降ってきた饅頭^{まんじゅう}が地表に張り付いたような離れ小島の山、小山。どのようにできたのか、興味が湧きます。江戸時代上田藩の郡奉行相馬与右衛門通孝が武石の風景を愛でて和歌を詠みました。村人の共感を得たものが武石八景として伝わってお

り、つくる会ではこれらの和歌にちなんだ場所に案内板を設置する事業を進めています。

今回は武石八景にさらに2首を加えた「武石十景」のうち、鳥屋・沖地籍にまたがる小山の月を詠んだ歌の案内板を小山北側の県道バイパス沿いに設置し、11月22日(水)関係者により除幕式を行いました。

つくる会の児玉会長は「歌は小山の背後に昇る中秋の名月を、麓から眺めながら詠まれたものではないか」としています。来年の中秋の名月には、どこから見上げる月が小山の風景にふさわしいか皆で検証のお月見を計画したい、そんな想像力を膨らませた除幕式でした。



こやまね からころも
小山根の秋のさなかに唐衣
きてもみよかし月のさやけき

(秋もたけなわのころ、小山の麓に来て、見て感じてほしいなあ、天空にかかる月のさやけさを)

10月の朝、東の空に珍しい雲が見られました。「吊るし雲」という雲で天気が崩れるサインといわれています。

(藪合 Kさんから寄せられました)

珍しい写真や、地域づくりに対するご意見など皆さんの投稿をお待ちしています。



第22回 たけし歴史さんぽ道

大平の経塚と板碑 II

郷土史家 児玉卓文

明治14年の鳥屋・腰越・東内のそれぞれの『村誌』は、鳥屋城の山を鳥屋村では「鳥屋入山」、腰越村では「樽沢山」、東内村では「大年寺山」と記しています。

東内新屋の旧農協の西に小さなお堂があります。このお堂はむかし洞昌山大年寺といい、小柳産業の所にありました。そこから鳥屋城に続く尾根も「大年寺」の小字がついています。寺は南北朝時代後半の貞治2年(1368)に建てられ、その後兵火で焼けて荒廃し、現在地に再建されたと伝わっています。



山の腰越側を見てみましょう。小屋坂トンネルへの道路からinariyama.co.・国道・塩沢産業の小字は「寺開土」といいます。



江戸時代、依田窪を通る諏訪道は、シナノケンシ付近で依田川を渡り、十貫石の山裾を巻いて腰越の町に出て、一本木神社手前で斜めに段丘の縁に出て西に進み、「寺開土」で小屋坂峠への道と分かれ、河原へ下りながら山の鼻を回り込んでから鳥屋と沖へ分岐していました。

明治28年、新たに現在の腰越からの道筋が造られました。昭和30年の道路改修工事の際に、inariyama.co.の脇付近で、約3,000枚の銭が詰まった古瀬戸と呼ばれる四耳壺(最も新しいものは、1265年初鑄の南宋銭「咸淳元宝」と水注が発見されました。古瀬戸とは、平安時代末から室町時代中期に愛知県東部の瀬戸地方で焼かれた釉薬をかけた焼き物を言います。四耳壺は本来

貯蔵容器ですが、火葬骨の骨壺として使われ、銭を埋めるために使われるのは稀なことです。

四耳壺は鎌倉時代後期の様式で、銭の時代も考えると、鎌倉時代末期以降に埋められたものと思われる。水注は鎌倉時代末期から室町時代初期



四耳壺

水注四耳壺

の優品で、注ぎ口の反対にある把手は破損し、丁寧に漆で補修した跡があるので、ある程度使用した後に

埋められたと考えられます。

古瀬戸は寺院周辺で見つかることが多く、寺開土も名の通り室町時代には寺があり、天文22年(1553)8月、武田信玄の鳥屋城攻めで焼け、元龜元年(1570)に腰越の「おしろ屋敷」の地に全芳院として再建されたと伝わります。

山の西側の鳥屋大平を見てみましょう。前回そこに経塚があり、板碑が見つかったことを述べました。

明治14年の『下武石村誌』には、妙見寺の寺伝が次のように記されています。

「文治中(鎌倉最初期の1185～89)、武石某鳥屋村に一字(寺)を創建し、大日如来、妙見尊の二仏を安置し、法相宗僧完光これを帰依(一心に信仰)し、祈願を務む。のち衰微しく今その寺跡を大日畑という)、正応中(1288～92)僧看弘、大日如来を日影山の麓に移し、妙見尊は字小沢根に移し(その跡今なお存す)、応仁中(1467～68)僧祐明、大日如来・妙見尊を今の地へ移し、(以下略)」

大平の「大日畑」は、慶安4年(1651)の検地帳にも見えます。経塚や板碑は関係すると思われるので、それぞれの場所の特定を切望しています。

大平に隣接した沖の丸屋の坂の県道の脇には、大きな五輪塔の「風空輪」(上田市指定文化財)があります。近くの場所から運ばれたと思われるのですが、鎌倉時代末～室町時代初期の様式と推定されています。

鳥屋城の周囲には、鎌倉時代から室町時代の、仏教色の濃い、そして武石の成り立ちに関係すると思われる事物がいくつも埋もれています。

武石を盛り上げる
人々グループ紹介

武石の人々 団体



武石鳥屋の見晴台団地の西側坂道を山に向かって約300メートル上った所、小高い南向きの山裾に「一棟貸しの宿 もりしま」はあります。

以前は県外にお住いの方の別荘でしたが、2019年に「高齢になって通うのが難しくなった」と20年来の付き合いがあった隣家の滝沢さんに別荘購入の打診があり、空き家になってしまうのはとの想いから購入を決めたとのこと。

当初は家族の住まいにすることも考えましたが、簡易宿泊所として営業が可能であることが分かり、2020年1月に営業許可を取得、2月からスタートして今年で4年目になります。食事の提供は有りませんが、一日一組限定、最大定員6名までで利用ができます。

建物は築21年の木造平屋、93平方メートルの広さにリビングダイニング、和室1部屋、洋間2部屋、トイレ・バスルームがあり、家電や調理器具、食器類など生活に必要な物が全て揃っていて、キッチンで自炊することができます。また、前庭ではBBQを楽しむこともできます。



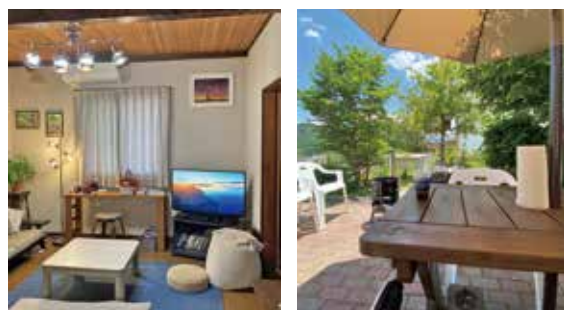
コロナ禍のために開業当初は大変厳しい状況でしたが、一軒家で宿泊者を一組に限定する仕組みが「密」を避け、感染リスクが低いことをアピールし、また県民割りや旅行支援などの利用もあって、そこそこの利用客はあったとのこと。



一棟貸しの宿 もりしま
管理人 滝沢 詳治さん



「もりしま」の一番の特長は、一日一組限定の貸し切りであることで、他人を気にすることなく気楽に食事や風呂、くつろいだ空間を楽しむ事ができ、利用客に人気があるようです。



滝沢さんは自らSNSで情報発信をし、来られた方には武石の温泉施設などの説明や案内をしています。「泊まりにきた方々に、武石の事を知ってもらうきっかけ作りのお役に立ちたい」、また「宿を通じて、色々な人たちとの繋がりができたことがとても良かった。夫婦で体が動く限り宿を続けたい」と滝沢さんは話していました。

「冠婚葬祭などで家族、親戚の方々の宿泊が自宅で難しい時は、ご利用ください」とのことです。

一棟貸しの宿 もりしま

上田市武石鳥屋146-1

HP: <https://www.morishima1.com>

一棟貸しの宿 もりしま

検索